

文献紹介

〈書籍〉

A Sense of Dance

— Exploring Your Movement Potential — (96)

by Constance Schrader

Human Kinetics, Leeds, UK.

ダンサー・振付家・そして教師としての筆者自らの経験をもとに本書は上梓された。ただし、理論的な部分には多くの先達の知見も程よく援用されている。

四章構成であり、その第一章はからだの機能と表現性、第二章は動きに関わる考察がなされ、時間・空間・エフォート等が論じられている。また、第三章では知覚と「身体」、とりわけ「身体の知性」(body intelligence)なる概念をそこでは提示し、興味深い考察がなされている。そして、最後の第四章では作舞の実際について個性的な見解が述べられている。

対象読者は、「学校」という場においてダンスに関わる者(教師・学生)に限定されている。よって、多少マニュアル的な面もあり、また、思索が施されている部分での切り込みに物足りない印象をあたえる点が残念である。

Dancers Talking Dance

— Critical Evaluation in the Choreography Class — (96)

by Larry Lavender, Ph. D.

Human Kinetics, Leeds, UK.

コレオグラフィーのクラス運営はまことに厄介である。つまり、非常に難しい。その現実に対して果敢に意見を差し延べる関連書はこれまでもかなりの数出版されてきたが、本書はそれらに比べ、一歩踏み込んだ内容を提供している。「批判的(critical)評価」という方法を前面に据え、その具体的取り組みとして「O. R. D. E. R. アプローチ」、すなわち Observation(観察) / Reflection(反省) / Discussion(論議) / Evaluation(評価) / Recommendations for revisions(修正に助する提案)といった一連の枠組みを提示しつつ、それらの内容を詳細に網羅・提出することにより、とかく担当者(教師・インストラクター)のたんなる主観の吐露に流れやすいそのクラスに客観的態度を持ち込んでいる。ただし、こうした手法の是非に関しては再び意見も分かれるところか。

Corporealities

— Dancing Knowledge, Culture and Power — (96)

by Susan Leigh Foster

Routledge, London.

「ダンスとヒステリーの歴史」、「タンゴを踊るからだ」といった興味深い内容のものをはじめとする10の刺激的な論文から本書は成っている。全般を貫くテーマは、動きのなかのからだと諸文化におけるそれらの意味である。

本書はからだを考察の中心対象とした文化研究であると同時に、きわめて高次のダンス研究にも成りえており、今後のダンス研究が歩んでしかるべき方向性を暗示しているように窺える。

上記2本以外の論文は以下のとおり。

- ①The Ballerina's Phallic Pointe
- ②History/Theory-Criticism/Practice
- ③The Re-turn of the Flaneuse
- ④Antique Longings: Genevieve Stebbins and American Delsartean Performance
- ⑤Lifelessness in Movement, or How do the Dead Move? Tracing Displacement and Disappearance for Movement Performance
- ⑥Dancing in the Field: Notes from Memory
- ⑦Fete Accompli: Gender, "Folk Dance", and Progressive-era Political Ideals in New York City
- ⑧Overreading the Promised Land: towards a Narrative of Context in Dance

〈後記〉

大貫、松澤が、ここ数年出版されたものの中から、両者の責任によって適宜、選択して紹介した。

平成7年度 舞踊学関係修士論文題目一覧

修士論文題目	氏名	大学院名
・ダンスの基本テクニックに関する生理・バイオメカニクスの研究	丸山 陽子	愛媛大学大学院教育学研究科
・ダンステクニックに及ぼすターンアウトの影響に関するバイオメカニクスの考察	池内 文	愛媛大学大学院教育学研究科
・リモンテクニックのバイオメカニクスの研究—クラシックバレエとの比較から—	藤田 倫子	大阪体育大学大学院
・体育教員のダンス共修に対する意識—ジェンダーに注目して—	在間 史枝	大阪体育大学大学院
・真境名由康作品研究—創作組踊と創作舞踊—	比嘉 英美	沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科
・ダンサーの心身に及ぼす自律訓練法の効果とバランス機能への影響	入江 抄子	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・狂言における基本的動作の特性—呼吸調整を中心に—	小林 ゆい	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・中高年者のダンス活動を規定する要因に関する研究	中山美由紀	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・20世紀前半のソヴィエト社会共和国における舞踊劇としてのバレエ	長谷川みゆき	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・George Balanchine (1904~1983) 研究—スタッカート・スタイルの確立—	山田 奈緒	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・秩父祭の表現システム	吉原 理子	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・三島由紀夫の舞踊観	小野澤瑞穂	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・日本の現代舞踊に見られる伝統的美意識と動きの特性—庄司裕を中心に—	熊谷美穂子	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・コンピュータによるダンスの振付に関する研究—振付デザインを中心に—	野口 暁	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・朝鮮近代舞踊家の芸術思想と社会的評価に関する研究—崔承喜と趙澤元を中心に—	金 恩漢	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・原馬室の獅子舞・棒術—埼玉県下の獅子舞に付随する「棒つかい」との比較を中心に—	鈴木 恵子	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科
・山田耕筰の「舞踊詩」研究	甲斐 朋江	国立音楽大学大学院
・戦後の学校体育におけるダンス教育の変遷に関する—考察—特に中学校体育を中心に—	鳥居 明子	埼玉大学大学院教育学研究科
・綾子舞「小原木踊」の—考察—舞・踊の構成を主眼に—	小関久美子	上越教育大学大学院学校教育研究科
・民俗芸能「盆踊」の意義についての研究—「江尾のこだいぢ踊」を事例として—	荒松 礼乃	筑波大学大学院体育研究科
・韓国と日本における舞踊教育に関する研究—体育教科書と学習指導要領の比較を通して—	金 子英	筑波大学大学院体育研究科
・中国民族舞踊における古典舞踊作品のイメージと構成に関する研究	張 瓊方	筑波大学大学院体育研究科
・現代における舞踊の動きの分析	佐藤 桂子	東京学芸大学大学院
・ダンスのジャンプ動作における“hanging”に関する三次元動作分析	岩淵多嘉子	東京学芸大学大学院

修士論文題目	氏名	大学院名
<ul style="list-style-type: none"> ・モダンダンスの踊跡についての研究 ・舞踊創作理論におけるシンメトリーの扱いについて ・舞踊療法と神秘主義についての一考察 ・宗教、祭祀儀礼と芸能 ・芸能における鬼一発生の意義とその表現一 ・舞踊譜考 ・表現行動としてのふり行為に関する一考察 一幼児のごっこ遊びを通して一 ・幼児期における音楽的表現活動に関する研究 一遊びの中の音声・身体の動きを中心 に一 	玉木 美帆 浜田 智子	日本女子体育大学大学院 日本大学大学院芸術学研究科
	川口 賢哉	日本大学大学院芸術学研究科
	黄 迎春	日本大学大学院芸術学研究科
	小林 直弥	日本大学大学院芸術学研究科
	蔡 美京	日本大学大学院芸術学研究科
	上月 康代	兵庫教育大学大学院学校教育研究科
	小嶋 美香	兵庫教育大学大学院学校教育研究科

(以上、平成8年7月31日までに御回答いただいた該当論文を掲載した)